# 3 いろいろな人の声を聞いてみよう

～こまっていること・私たち、まわりができること～

## 3-1 肢体不自由者（車いす・杖を使っている人など）

### こまっていること　車いすを使っている人

- 坂道や、でこぼこした道を通るのが大変です。下りを怖いと思う人もいます。
- 高いところにある物を取ったり、床に落ちた物を拾ったりすることがむずかしいです。
- 階段やエスカレーターが使えないので、エレベーターを使います。
- トイレを使うときは、広いスペースが必要です。

### こまっていること　杖を使っている人、手足の一部がまひしている人

- 物を持ったり、文字を書いたりすることがむずかしい人もいます。
- バランスを取りにくい人もいるため、電車やバスで立っていることがむずかしいです。

### 私たち、まわりができること

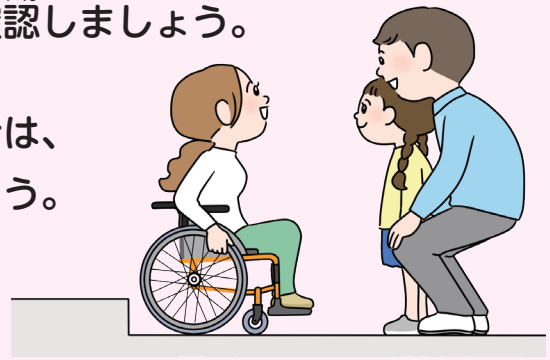
- エレベーターしか使えない人がスムーズに使えるように、階段やエスカレーターを使えるときはそちらを使いましょう。
- 電車やバスの優先席は、あなた自身が席をゆずれるときは席をゆずりましょう。
- 駐車場の優先スペースは車いすを使っている人などのために空けておきましょう。（くわしくは23ページ）

音声コード Uni-Voice

# 車いすを使っている人への対応

**その1** その人の車いすに合わせた対応が必要なので、
どのようにお手伝いをすればよいのか、
まず車いすを使っている人に確認しましょう。

**その2** 一人でお手伝いができない場合は、
まわりの大人に声をかけましょう。



## ●車いすから離れるときは

少しでも車いすから離れるときは、必ずブレーキをかけます。
ほんの少しでも地面がななめになっていると動き出してしまい、危険だからです。

## ●坂道のときは

**《上り》** 持ち手をしっかりにぎって、力を入れながらゆっくり押します。

**《下り》** 持ち手をしっかりにぎって、手が離れないように注意します。
急な下り坂の場合は、後ろ向きに下りる方法もあります。

**コラム**

### 車いすの種類の紹介

車いすにはいろいろな種類があります。「手動車いす」や「電動車いす」があります。また、「子ども用車いす*」などもあります。

手動車いす

電動車いす

子ども用車いす

*病気や障がいが理由で“これがないと移動できない”子どもが利用するものです。ベビーカーと同じような形でも、その人に合わせてつくられているので簡単に折りたたむことができません。

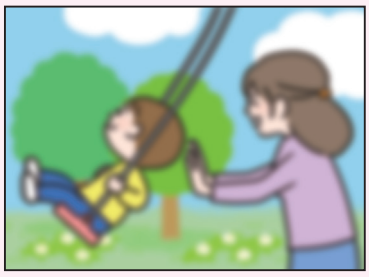


音声コード Uni-Voice

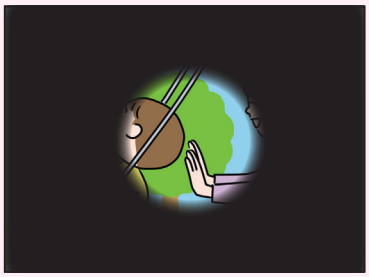
# 3-2 視覚障がい者

## 〈見え方について〉

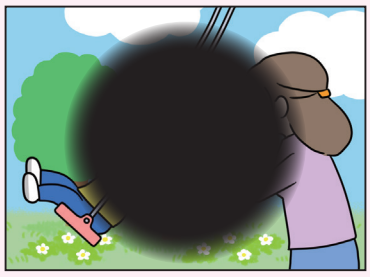
- 目の不自由な人の見え方は、人によってちがいます。
- 全く見えない人、見えにくい人がいます。
- 見えにくい人の中にも、ぼやけて見える、見える範囲がせまい、中心が見えないなどさまざまです。
- 目の中心部分が見えていれば、なんとか読み書きができ、目の中心部分以外が見えていれば、なんとか歩くことができるなど、見え方によってできることがいろいろあります。



ぼやけて見える



見える範囲がせまい



中心が見えない

## こまっていること 白杖を使って歩く人

- 白杖を使って歩いているため、急に白杖をさわられると、とても怖いです。
- 点字ブロックを手がかりに歩いているため、点字ブロックの上に自転車や荷物などが置いてあると先に進めません。
（点字ブロックについては22ページ）

## こまっていること 白杖を使っていない人

- まわりの人に目が不自由なことに気づいてもらえません。
- 盲導犬の役割を知らない人がいます。
（盲導犬については25ページ）

音声コード Uni-Voice

## 私たち、まわりができること

- 信号機が青になったら、「青になりましたよ。いっしょにわたりますか？」と声をかけましょう。
- 点字ブロックの上に立ち止まったり、物を置かないようにしましょう。

＊盲導犬は横断歩道をわたってよいかどうかを判断できません。

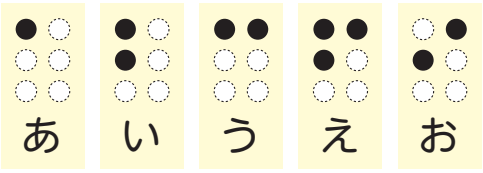
### 白杖

白杖は足元の状況を確認したり、まわりの人に目が見えにくいことを伝えるために使うものです。

### 点字

点字とは、目の不自由な人が指で読む文字のことです。文字や数字などをポツポツと盛り上がった、ヨコ２つ×タテ３つの６つの点で表します。

ただ、目の不自由な人の中には、点字が読めない人もいるので、点字が必要かどうか確認しましょう。




## いっしょに歩くときは…

**その1** どのようにいっしょに歩いたらよいか、目の不自由な人に確認します。

**その2** 歩くときは、段差や曲がる方向などを伝えます。「あっち」や「こっち」などの言葉は使わず、「左」や「右」など具体的に方向を伝えましょう。

音声コード Uni-Voice

# 3-3 聴覚障がい者

## 〈聞こえ方について〉

- 耳の不自由な人の聞こえ方は人によってちがいます。
- 全く聞こえない人、聞こえにくい人などがいます。また、発音の区別がつかない人やつきにくい人もいます。
- 話すことはできるけれど、聞こえない人もいます。

## こまっていること

- ぱっと見ただけでは耳が不自由なことがわからないため、まわりの人に気づいてもらえません。
- 車や自転車の音、電車やバスの案内放送、緊急放送や非常ベルの音が聞こえなかったり、気づかないことがあります。

- 口の形を見ながら、話していることを確認しています。マスクをしていると口の形がわかりません。
- 補聴器などを着けていても、内容が伝わっていない（聞こえていない）人もいます。

## 私たち、まわりができること

- 後ろから声をかけてふりむいてもらえないときは、「もしかしたら耳が聞こえないのかも」と思いましょう。
- 口の形が見えるように話しましょう。また、ジェスチャーもいっしょにやると、伝わりやすいです。

お店に買い物に行ったとき、最後に手話で「ありがとう」と伝えてもらえてうれしかったです。

音声コード Uni-Voice

# 目で見てわかるコミュニケーション

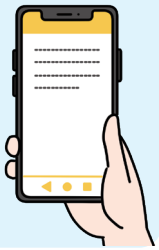
目で見てわかるコミュニケーションの方法はいろいろあります。話す相手の顔を見て、口をしっかり開けて話しながら、表情や手、体の動きで伝えます。“伝えたい”という思いが大切です。

## 手話

手話は、耳の不自由な人が使っている言葉です。手の指、体、目の動き、顔の表情などを使って話すものです。

## 筆談（紙／スマートフォン・タブレット）

紙や手のひらに文字などを書いたり、タブレットに文字を打ったり、声を文字に変えて画面を見せたりする方法などがあります。



## ジェスチャー

手や体の動き、顔の表情で伝えます。

## 口話

口の動きや形がわかるように、口を大きく開けて話します。

この他にも、空書（空中に文字を書いて伝える方法）や、指文字（50音を指の形で表す方法）などがあります。

## コラム　補聴器など

耳あな式

耳かけ式

人工内耳

耳の不自由な人の聞こえを助けるものです。補聴器には、耳あな式や耳かけ式などがあり、ワイヤレスイヤホンと見た目が似ていますが、使い方がちがいます。他には人工内耳というものもあります。

耳の不自由な人にとって、とても大切なものなので、無理にさわらないようにしましょう。

## ワーク　10～15ページを読んで、気がついたことや、感じたことを書いてみましょう。



音声コード Uni-Voice